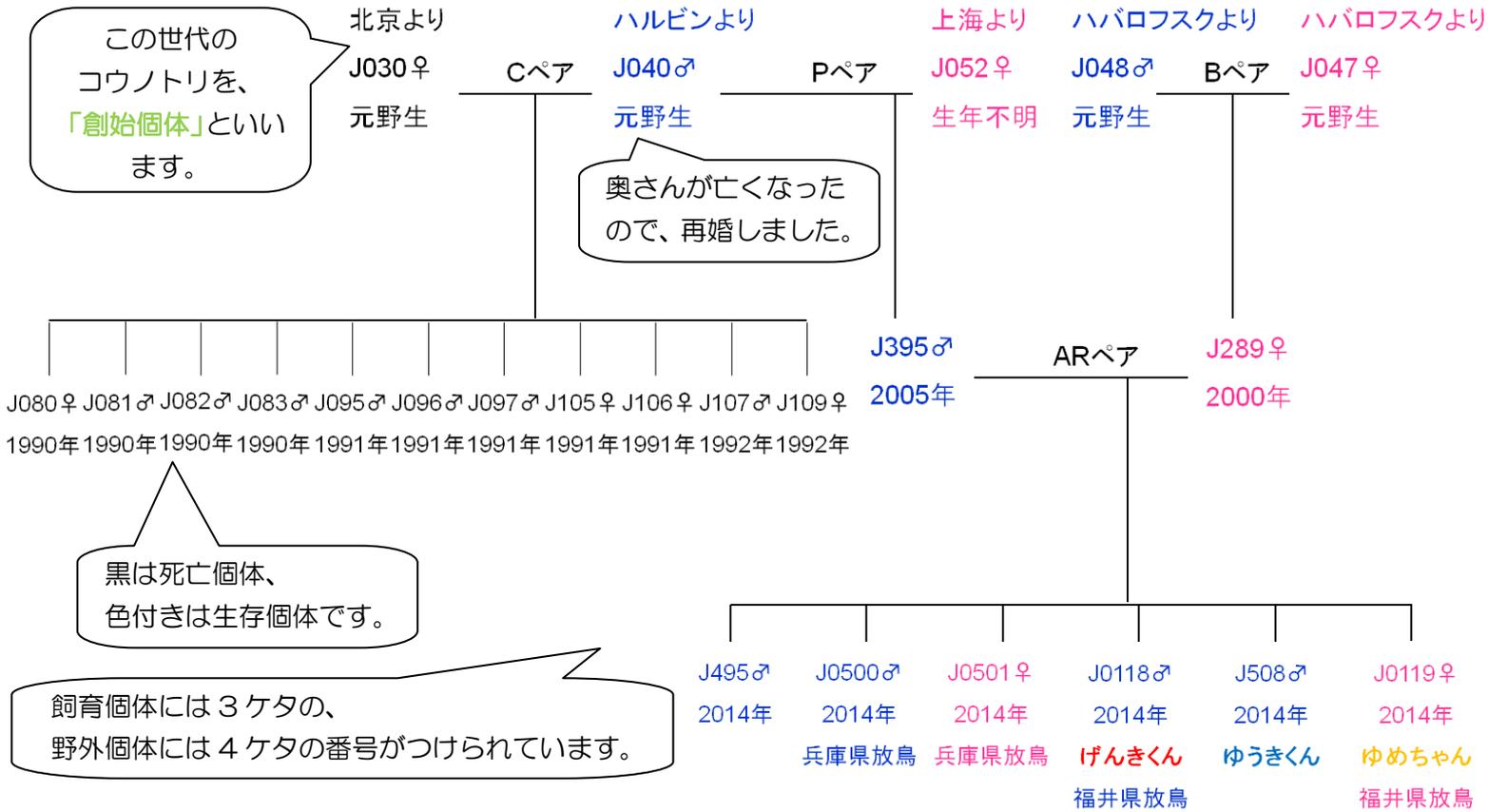


平成 28 年 2 月 10 日 大陸由来コウノトリは外来種か

コウノトリの放鳥事業をやっていく上で、よくある誤解に「日本産コウノトリは絶滅した。今放鳥しているコウノトリはロシア産である。生き物を導入するというのは、それがたとえ日本国内であっても本来の生息地のものでなければ国内移入種である。生物種によって全く扱いが違う。コウノトリは外来種なのに最良して保護するのはけしからん。」というのがあります。

では、**げんきくん**・**ゆうきくん**・**ゆめちゃん**の祖先を辿ってみましょうか。



見事に、彼らのおじいさん・おばあさん達は、**ハルビン**、**上海**、**ハバロフスク**と、大陸生まれです。

やっぱりか！外来種コウノトリは駆除しなければいけないのでしょうか！

…実は、最近の仮説では、**日本産コウノトリ**も、**稲作が始まってから日本に住み着いた**と考えられています。大陸でのコウノトリの生息地は湿地帯ですが、日本のような温帯では、湿地には背の高く硬いアシが生えてしまい、コウノトリは生活することができません。北海道の湿地には、タンチョウは住んでいても、コウノトリはいなかったのです。田んぼという、コウノトリでも分け入ることのできる背の低いイネが植えられた湿地ができたので、住めるようになったのでしょう。

また、**剥製で残っていた日本産コウノトリの遺伝子と、ロシア産コウノトリの遺伝子を調べた結果、違いが無いことが分かっています**。さらに兵庫県では、大陸から飛来した野生コウノトリが定着し、放鳥コウノトリと繁殖を始めた例があります。今回、**げんきくん**が韓国へ渡ったように、コウノトリは移動能力が高い動物ですので、昔から国境を越えた移動が頻繁に起こっていたと推定されます。

越前市では、コウノトリも住める環境整備のため、ドジョウの養殖事業を進めています。始めるにあたって、越前市全体でドジョウの遺伝子調査を行ったところ、**白山地区を流れている天王川水系と、隣の坂口地区を流れている吉野瀬川水系では、遺伝子が異なることを突き止めました**。養殖するドジョウは地域固有の遺伝子を持つもののみとし、白山地区の**ふっくんさっちゃん**に餌として与える場合は、越前市内で獲れたドジョウであっても、白山産以外であれば、逃げないようにお湯で締めて与えています。**国から国へ行き来するコウノトリと、川から川へ行き来できないドジョウ**。

「生物種によって扱いが違う」のは、「生物種によって移動能力が違うから」なんです。